

コース名		科目名			対象学年		
臨床医学		消化器系 I			3		
開講学期		科目責任者		副責任者			
1 学期		塩谷 昭子		上野 富雄			
<b>目的</b>							
消化管の病理や消化管の各種疾患における病態および診断・治療について外科領域を含め医学生として必要な知識を養う。							
<b>授業到達目標</b>							
1. 消化管の解剖と生理機能を説明できる。 2. 消化管の形態診断について説明できる。 3. 病態を理解した上で各消化管疾患の診断と治療のポイントを説明できる。 4. 主な消化器症状から消化管疾患の診断をする上での鑑別診断ができる。 5. 消化管の主要な検査について説明できる。 6. 消化管の正常および代表疾患の病理組織が説明できる。 7. 消化管領域の外科的治療について説明できる。							
<b>授業計画</b>							
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容
1	4/ 1	月	5	講義	半田	消内	消化管の検査 腫瘍マーカー、エックス線、CT、内視鏡
2	4/ 1	月	6	講義	半田	消内	消化管疾患の治療総論
3	4/ 5	金	5	講義	秋山隆	病理	消化管病理 【口腔・唾液腺疾患の病理】
4	4/ 5	金	6	講義	秋山隆	病理	消化管病理 【食道疾患と胃疾患の病理】
5	4/10	水	4	講義	眞部	検査診断(内・超)	食道炎・Mallory-Weiss 症候群・アカラシア
6	4/15	月	5	講義	半田	消内	急性胃炎・機能性ディスペプシア・AGML
7	4/15	月	6	講義	半田	消内	胃ポリープ、胃粘膜下腫瘍
8	4/16	火	3	講義	秋山隆	病理	消化管病理 【胃の腫瘍性疾患の病理】
9	4/23	火	4	講義	梅垣	消内	食道癌の症候と診断・内視鏡治療
10	4/23	火	5	講義	鎌田	健康管理	消化性潰瘍
11	4/23	火	6	講義	鎌田	健康管理	ヘリコバクターピロリ感染症・慢性胃炎
12	4/25	木	4	講義	梅垣	消内	胃癌・総論
13	4/25	木	5	講義	梅垣	消内	胃癌 診断・治療
14	4/25	木	6	講義	秋山隆	病理	消化管病理 【腸の炎症性病変の病理】
15	5/ 1	水	4	実習	秋山隆	病理	消化管病理実習 【口腔・唾液腺疾患の病理】
16	5/ 1	水	5	実習	秋山隆	病理	消化管病理実習 【食道疾患と胃疾患の病理】
17	5/ 1	水	6	実習	秋山隆	病理	消化管病理実習 【胃の腫瘍性疾患の病理】
18	5/ 7	火	5	講義	秋山隆	病理	消化管病理 【腸の腫瘍性病変の病理】
19	5/ 7	火	6	講義	松本啓	消内	感染症腸炎・好酸球性消化管疾患・食物アレルギー
20	5/14	火	4	講義	松本啓	消内	潰瘍性大腸炎
21	5/14	火	5	講義	松本啓	消内	クローン病
22	5/14	火	6	講義	大澤元	消内	他の炎症性腸疾患 (腸型ベーチェット・腸結核・その他)

23	5/21	火	5	講義	塩谷	消内	過敏性腸症候群、大腸憩室症、直腸、肛門病変
24	5/21	火	6	講義	大澤元	消内	放射線性腸炎・虚血性腸炎・薬剤性腸炎・その他（膠原線維性大腸炎・急性出血性直腸潰瘍・直腸粘膜脱症候群）
25	5/23	木	5	講義	大澤元	消内	大腸ポリープ・消化管ポリポース
26	5/23	木	6	講義	梅垣	消内	大腸癌
27	5/28	火	4	実習	秋山隆	病理	消化管病理実習 【腸の炎症性病変の病理】
28	5/28	火	5	実習	秋山隆	病理	消化管病理実習 【腸の腫瘍性病変の病理】
29	5/28	火	6	実習	秋山隆	病理	消化管病理実習 【腸の腫瘍性病変の病理】
30	6/ 7	金	5	講義	上野富	消外	虫垂炎・急性腹症の手術
31	6/ 7	金	6	講義	上野富	消外	腸閉塞症・イレウス・腹部のヘルニア
32	6/11	火	5	講義	塩谷	消内	消化管内分泌腫瘍・吸収不良症候群
33	6/11	火	6	講義	塩谷	消内	消化管ホルモンと産生腫瘍
34	6/13	木	5	講義	遠藤俊	消外	上部消化管の外科解剖・術後の病態生理
35	6/13	木	6	講義	遠藤俊	消外	胃癌の手術・化学療法と予後
36	6/17	月	4	講義	秋山隆	病理	消化管病理 【取扱い規約と消化管病理の復習】
37	6/17	月	5	講義	松本啓	消内	消化管のリンパ腫
38	6/17	月	6	講義	藤原由	消外	食道癌の手術・化学療法と予後
39	6/21	金	4	講義	吉松	消外	下部消化管の外科解剖・術後の病態生理
40	6/21	金	5	講義	吉松	消外	大腸癌の手術・放射線・化学療法と予後
41	6/21	金	6	講義	吉松	消外	IBDの手術と予後・肛門疾患

#### 評価方法

[期末試験]100%（病理レポートの概略評価は、期末試験の病理担当分の20%に反映します。）

[評価方法]多肢選択試験、論述・記述試験

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて

病理レポートに関しては、担当者がチェックを行い概略評価を付けて返却します。

その概略評価は、期末試験の病理担当分の20%に反映します。

#### 教科書

ISBN-978-4-254-32280-4 C3047, 内科学 第12版, 矢崎 義雄・小室 一成(総編集), 朝倉書院, 2022/3/1

ISBN-9784260047821, 標準外科学 第16版, 北野 正剛(監修), 坂井 義治(監修), 田邊 稔(編集), 池田 徳彦(編集), 大木隆生(編集), 医学書院, 2022/03/01

ISBN-9784524261543, シンプル病理学(改訂第7版), 笹野 公伸(編集), 安井 弥(編集), 岡田 保典(編集), 南江堂, 2015/08/06

#### 参考書

ISBN-9784260036597, 標準病理学 第6版 (Standard Textbook), 北川 昌伸(編集), 仁木 利郎(編集), 医学書院, 2019/03/15

#### 準備学習（予習・復習等）

消化管の解剖学と生理学の予習（再学習）を10分程度しておくこと。

配布資料を参考に、教科書を用いて復習を20分程度すること。

#### 講義についての注意事項

病理学実習はマルチメディア教室（M-710）で行います。実習には、病理実習レポート用紙、色鉛筆（赤・青）を持参してください。

#### 昨年度からの変更点・改善項目

講義内容を考慮し学習しやすいように講義の順番を入れ替えた。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について

本科目後に学修する消化器系Ⅱと合わせて、4年次学修科目の症候論や臨床病態論の他、臨床実習開始のために必要な医学知識を習得する。

この科目は、主としてコンピテンスⅢ.医学と関連領域の知識の3.「病態から臨床症状、診断方法や治療方法を説明することができる。」の達成に向けて設定されている。

ナンバリング

DPDI306